

12-1 松本城クイズ46 松姫伝説をめぐって (解答・解説)

松本城管理事務所研究室

今回は松本城にかかわる伝説のなかの「松姫」伝説についてお尋ねしますのでお答え下さい。

1. 「五社の祭りは雨が降る。姫のうらみで雨が降る」と子守歌にうたわれるほど、この祭りには雨が降ります。さてここに歌われている姫は誰のことでしょうか。次の中から一人選びなさい。.....②

この子守歌にあらわれている姫は**松姫**のことを言っています。松姫はやがて虎松（永兼）を生みますが、丈夫でなかった。家康との対面のために江戸に上る途中で病死してしまいます。松姫は悲しみの余り狂乱し、うらみを残したまま亡くなったため、姫の祀られている松本神社のお祭りには雨が降るのだと言われています。



松姫

2. 1の問題の姫は、松本戸田家の祖の正室として嫁ぎました。この松本戸田家の祖とは誰をさしているのでしょうか。次の中から一人選びなさい。.....③

戸田家は古くから徳川家につかえた三河二連木（にれんぎ）の城主で、戸田康長は父を幼くして亡くした。家康はこれを哀れみ、6歳の**戸田康長**に家督相続を許し、家康の生母於大の方が再婚して生んだ家康の妹（養妹：ようまい）にあたる当時5歳の松姫を許婚（いいなずけ）にした。

3. 1の問題の姫の神号は何と呼ばれていたのでしょうか。次の中から一つ選びなさい。.....④

松姫の神号は、**淑慎**（しゅくしん）と言う。

4. 戸田家の氏神松本神社は別称・暘谷様とよばれています。祭神のうちの一人である□□の祭神名であるが、問題1の姫のことを指していると誤解されています。祭神のうちの一人で暘谷様と呼ばれている人は誰をいうのでしょうか。次の中から一人選びなさい。.....①

戸田永兼（ながかね）のことをいっている。長男永兼は病弱のため家督を継いだのは弟、康直でした。その頃から戸田家にはさまざまな不幸が起こった。康直は、大名になれなかった兄永兼の怨霊の祟りではないかと恐れ、これを鎮めるために永兼を暘谷霊社に祀った。



5. 問題1の姫を生んだ於大（おだい）の方は、三河国刈谷城主・水野忠政の娘です。松平広忠に嫁いで〇〇を生みました。〇〇に入る人物を次の中から一人選びなさい。.....③

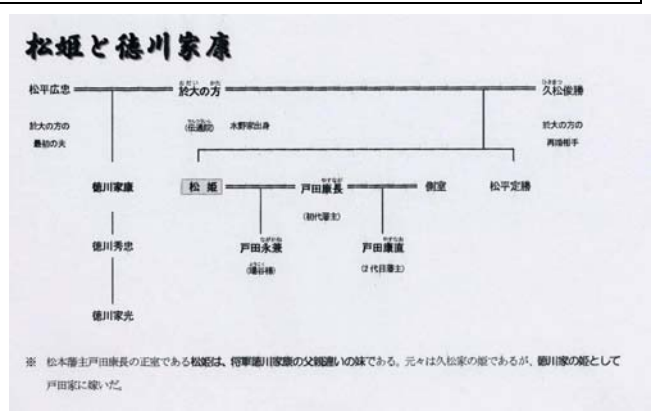
松平広忠と於大の方の間に生まれたのが、**徳川家康**である。寛永19年（1642）に松本城主となった水野家初代城主・水野忠清は、於大の方の甥に当たります。このため水野家が改易になったのちに、於大の方と縁続きということで再興を許された。



於大の方

6. 於大の方は、問題 1 の姫を再婚相手〇〇との間にもうけました。大御所徳川家康とは父親違いの妹となります。さて再婚相手の〇〇とは誰でしょうか。次の中から一人選びなさい。・・・・・・・・①

図は小さいので「ガイド」の図をみてください。
 於大の方の再婚相手は、**久松俊勝**である。



7. 戸田康長と正室との間に生まれた長男は、病弱だったため家督を継いだのは弟でした。長男は悲しみのうちに松本で40歳で亡くなりました。家督を継いだ弟とは誰をいうのでしょうか。次の中から一人選びなさい。・・・・・・・・④

戸田康長



戸田康長と側室の間に生まれたのが、康長の家督を継いだ**戸田康直**である。

8. 問題 7 の弟が戸田家を継いだ頃から、戸田家にはさまざまな不幸が起こりました。弟は、大名になれなかった兄の怨霊（おんりょう）のたたりではないかと恐れ、これを鎮めるために兄を霊社に祀り（まつり）ました。この霊社とは次のうちのどれでしょうか。一つ選びなさい。・・・・・・・・②

戸田康長の家督を継いだ弟康直は、大名になれなかった兄永兼の怨霊の祟りではないかと恐れ、これを鎮めるために永兼を**暘谷**霊社に祀った。

9. 問題 8 のさまざまなたたりは、いつの頃からか、兄のたたりは実は我が子が大名になれなかった悔しい思いが悪霊となって引き起こしたと言われるようになりました。こうして〇〇〇〇だと信じられるようになったのです。次の中でどう信じられたのか、あうものを一つ選びなさい。・・・・・・・・①

いつの頃からか、永兼の祟りは、わが子が大名になれなかった正妻松姫の悔しい思いが悪霊となって引き起こしたと言われるようになり、**永兼の神号暘谷大神（暘谷様）**が松姫のことであると信じられるようになった。

10. 姫にかかわる伝説は、さまざまな風評となって現在でも私たちの心の中に入り込んできます。次の中で風評となっていないものはどれでしょうか。一つ選びなさい。・・・・・・・・④

4番は風評ではなく事実である。